

Ciné-là



シネラ・ニュース
November.2008 No.145

fiaf

国際フィルム・アーカイヴ連盟＝FIAFは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAFの会員です。

特別企画

平成20年度日本映画上映支援事業

ATG映画特集

芸術映画の製作・配給を行い、60年
代、80年代の日本映画を牽引した
存在であったATG映画の特集。



支援：文化庁



とべない沈黙

特別企画

ぴあフィルムフェスティバル

in福岡



不灯港



GHOST OF YESTERDAY



第九交響楽

自主制作映画の日本最大の
コンペティション、ぴあフィ
ルムフェスティバル入選作
を上映。

ATG映画特集

特別企画

芸術映画の製作・配給を行い、60年代～80年代の日本映画を牽引した存在であったATG映画の特集。

会期：11月6日(木)～24日(月・祝)
※休館日・休映日を除く

観覧料：600円(大人)
500円(大学生・高校生)
400円(中学生・小学生)

※定員制。各回入替制。
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※障がい者の方、及び福岡市在住の65才以上の方は300円。(手帳の提示が必要です。)
※「わの会」会員は300円(会員証の提示が必要です。)

8【土】19【水】

津軽 じゃんがら節



監督：斎藤耕一 出演：江波杏子 織田あきら

1973年/35ミリ/カラー/103分/斎藤プロ=ATG

津軽のさびれた漁村に、東京から徹男とイサ子がやって来る。ここはイサ子の故郷で、徹男はヤクザから追われて身を隠すためだった。何もない漁村に最初はふてくされてた徹男だが、次第に田舎の生活に馴染んでいく。荒々しい日本海の自然に、高橋竹山の津軽三味線の音が見事にマッチする斎藤監督の代表作。斎藤真一画伯の替女の絵が効果的に挿入される。

7【金】16【日】21【金】

とべない沈黙

監督：黒木和雄 出演：加賀まりこ 長門裕之
1966年/35ミリ/モノクロ/100分/日本映画新社

北海道の少年が、九州にしか生息しない蝶を捕獲する。蝶の幼虫は長崎から広島、京都と旅をしていく。黒木和雄監督初の劇映画。細かい物語でつながったオムニバス風の映画だが、詩的で大胆に飛躍するイメージの連続で、現代日本を描写していく。全編を通して加賀まりこが蝶の化身として登場する。

7【金】15【土】

告白的女優論

監督：吉田喜重 出演：浅丘ルリ子 岡田茉莉子
1971年/35ミリ/カラー/123分/現代映画社

「告白的女優論」という映画に出演することになった三人の女優の、撮影開始前の2日間の出来事を描いた作品。3人の女優(演じるのは浅丘ルリ子、岡田茉莉子、有馬稲子)の別々の物語が同時進行で描かれる。過去と現在、夢と現実を行き来する複雑な構成で「女優とは何か?」というテーマに迫る。

6【木】14【金】23【日】

少年



高知市。4人家族が旅館に宿泊している。父親は傷痍軍人で無職。母親は後妻で幼い連れ子のチビがいる。本作の主人公は父親の実子である10才の少年。少年は道路を走っている車にわざと当たり、父親が運転手から治療費を巻き上げるのだ。「当り屋」を仕事とする家族は、高知から北九州、福井と各地を転々としながら仕事を繰り返していく。しかし高崎では相手の運転手が警察を呼び、写真を撮られてしまう。危険を感じた一家は山形から北海道へと逃げていく。

監督：大島渚 出演：渡辺文雄 小山明子
1969年/35ミリ/カラー/97分/創造社=ATG

8【土】21【金】24【月祝】

青春の殺人者



監督：長谷川和彦 出演：水谷豊 原田美枝子

1976年/35ミリ/カラー/132分/今村プロ=綜映社=ATG

成田空港近郊のスナックのマスター斉木順は、ウェイトレスのケイ子との結婚を両親から反対される。父親にケイ子を侮辱された順はカッとなって父親を殺してしまう。母親は順に死体を隠して一緒に逃げようとする。中上健次の小説「蛇淫」の映画化。キネマ旬報ベストテン第一位となり、主演の水谷豊は最年少でキネマ旬報主演男優賞を受賞。

9【日】15【土】20【木】

サード



監督：東陽一 出演：永島敏行 森下愛子

1977年/35ミリ/カラー/103分/幻燈社=ATG

高校野球で三塁手をしていた「サード」と数学IIが得意な「II B」は、二人の女子高生「新聞部」と「テニス部」と、金儲けのために売春を行う。そして「サード」はヤクザと傷害事件を起こして少年院に入れられる。「サード」は夢の中でもホームベースを求めて走り続ける。少年院の教官だった軒上泊の原作小説を映画化。瑞々しい青春映画の傑作。

9【日】22【土】

ガキ帝国



監督：井筒和幸 主演：島田紳助 松本竜介

1981年/35ミリ/カラー/115分/ブレイガイドジャーナル社=ATG

少年院から出てきたリュウは、梅田で暴力団の後ろ盾で勢力を伸ばす北神同盟や難波を牛耳るホープ会のいずれにも属さず、喧嘩三昧の日々を送るのだが...。当時売り出し中の漫才コンビ「紳介・竜介」を主役に器用、アナーキーなパワに溢れる作品。在日韓国人の問題も描かれ、名作「パッチギ!」の原型とも言える作品。

12【水】15【土】23【日】

遠雷



監督：根岸吉太郎 出演：永島敏行 石田えり

1981年/35ミリ/カラー/135分/ニューセンチュリープロデューサーズ=にっかつ=ATG

都市化の波が押し寄せる宇都宮。満夫の父親は土地成金で、家を出てバーの女と同棲する。兄は農業を嫌い東京で働く。満夫は母と祖母の三人で暮らし、トマト栽培を続けるのだった。立松和平が野間文芸新人賞を受賞した小説の映画化。都市化の波の中で頑なに農業を続ける主人公を永島敏行が好演する。根岸吉太郎監督は本作で一躍有名になる。

13【木】20【木】22【土】

逆噴射家族



監督：石井聰互 出演：小林克也 倍賞美津子

1984年/35ミリ/カラー/107分/ディレクターズ・カンパニー=国際放映=ATG

小林勝国の一家4人は新興住宅地に一軒家を購入し、引っ越してきた。そこへ九州から祖父がやって来て住み着き、たちまち家は部屋不足に。勝国は窮余の策として地下室を掘り始める。小林よしのりの原作を石井聰互監督がハイテンションのパワーで映画化。ブラックユーモアに満ちたホームドラマの快作。

13【木】22【土】

生きてゐるうちが花なのよ



監督：森崎東 出演：倍賞美津子 原田芳雄

1985年/35ミリ/カラー/105分/キノシタ映画

旅回りのストリッパー・バーバラが名古屋の港町に帰ってくる。その飲み屋の二階にはバーバラの内縁の夫で原発ジプシーの宮里が住んでいた。不良中学生やフィリピン人夫婦などはみ出し人間達の様々な物語が、森崎監督独特の演出が光る。当時社会的に話題となった原発での日雇労働者を描いた点が特筆される。

14【金】24【月祝】

台風クラブ



監督：相米慎二 出演：三上祐一 工藤夕貴

1985年/35ミリ/カラー/115分/ディレクターズ・カンパニー

東京近郊の地方都市。市立中学校3年5組の生徒達の日常生活を描いた作品。彼らの精神と肉体の不安定さ、苛立ちが台風に象徴されて見事に映像化され、言葉では現せない映画の興奮が表現される。一般公募されたシナリオを、当時注目の若手監督だった相米慎二が演出し、第一回東京国際映画祭ヤングシネマ部門大賞を受賞した傑作。

特別
企画

ぴあフィルムフェスティバル in 福岡

1日(土)11:00 PFFアワード・プログラム D

蟬顔

PFFアワード観客賞

2007年/ビデオ/カラー/56分/監督:野田賢一 角田裕秋

天狗の葉

2007年/ビデオ/カラー/71分/監督:斉藤貴志

「蟬顔」は漫画家を夢見る主人公が親の破産でいきなりホームレスになってしまう物語。公園に住む主人公の存在感がパツンに良い。「天狗の葉」は小学6年生の少年と少女の物語。二人は廃校となった学校の校庭でお化けを見る。しかしお化けが見えるのはどちらか一人だけだった。二人の孤独が繊細な感覚で表現される。

1日(土)13:45 PFFアワード・プログラム F

死ぬほど好きだよ、おねえちゃん

2007年/ビデオ/カラー/49分/監督:尾崎香仁

マイム マイム

PFFアワード準グランプリ、エンタテインメント賞

2007年/ビデオ/カラー/87分/監督:岨手由貴子

「死ぬほど好きだよ、おねえちゃん」は結婚する姉への異常な執着を見せる27才の主人公を、ドキュメンタリータッチで描いた作品。「マイム マイム」は何事することもなく一人暮らしをするマコトと、十年ぶりに再会した小学校時代の友達ナカジの物語。二人はキャンプに行くのだが…。映画は自分をもてあますマコトに寄り添う。

1日(土)16:30 PFFアワード・プログラム B

一京

2007年/ビデオ/カラー/35分/監督:多久間知宏

かざあな

PFFアワード審査員特別賞

2007年/ビデオ/カラー/94分/監督:内田伸輝 R-18

「一京」は昔好きだった女の葬儀へ行くために、友人を殺して喪服を奪いヒッチハイクする男を描いたブラック・コメディ。「かざあな」はナベちゃん、ミカちゃん、ヨウちゃん、シンちゃんの4角関係のドラマ。若者の日常をヌーヴェル・ヴァーグの恋愛ドラマのように描いた作品。

1日(土)19:15 第18回PFFスカラシップ作品

不灯港

出演:小手伸也 宮本裕子

2008年/35ミリ/カラー/101分/監督:内藤隆嗣

漁師をしている38才の独身男・万造は一人暮らしで孤独だった。ある日役所の主催でお見合いパーティが開かれる。東京から来た女性を相手に張り切る万造だが、思いは空回りするばかりだった。PFFアワード2006で「MIDNIGHT PIGSKIN WOLF」で入選をした内藤隆嗣監督のスカラシップ作品。ハードボイルドな演出とユニークな登場人物が魅力。

自主制作映画の日本最大のコンペティション、ぴあフィルムフェスティバル入選作を上映。



2日(日)11:00 PFFアワード・プログラム C

トラとホットケーキ

2007年/ビデオ/カラー/55分/監督:堀本太地

Scherzo/スケルツォ

2007年/ビデオ/カラー/75分/監督:平波亘 PG-12

「トラとホットケーキ」は突然いなくなった同居人を探す旅に出る二人の男の物語。おとぼけロードムービー。「Scherzo/スケルツォ」はキリストのような風貌をした男を主人公にした新感覚のコメディ。彼の部屋には多くの人が訪れ、そして訳もなく死んでいく。スケルツォとはイタリア語で冗談の意味。

2日(日)14:00 PFFアワード・プログラム E

ケイコワ

〈監督来場予定〉

2007年/ビデオ/カラー/9分/監督:三宅佑治

つつましき生活

2007年/ビデオ/カラー/43分/監督:森岡龍

症例X

PFFアワード審査員特別賞

2007年/ビデオ/カラー/67分/監督:吉田光希

「ケイコワ」はかわいい切り絵のアニメーション。小学6年生のケイコは母親が自慢のエリート小学生。そんな母親もまたケイコは自慢する。監督は福岡出身。「つつましき生活」はドジな市川くんと漫画家志望の芳賀くんの笑えるような共同生活を描いた作品。「症例X」は認知症が進行しつつある母親を一人で在宅介護する息子を描いた作品。

2日(日)16:45 PFFアワード・プログラム G

舞いあがる塩

2007年/ビデオ/カラー/18分/監督:水本博之

GHOST OF YESTERDAY

PFFアワード審査員特別賞、企画賞

2006年/ビデオ/カラー/130分/監督:松野泉

「舞いあがる塩」はただひたすらに西に旅する男を描いた作品。砂塵が舞い、塩の嵐がおそう中を男は旅していく。「GHOST OF YESTERDAY」は夫に先立たれ記憶をなくした母親と兄妹の物語。そしてそこから始まる得体のしれない家族ゲームが始まる。登場人物たちの心情を丁寧に描いた力作。

会 期: 11月1日(土)~3日(月・祝)

観覧料: 1,000円(当日1回券)
800円(前売り1回券)
2,700円(当日3回券)
2,100円(前売り3回券)

※定員制。各回入替制。※開場は開演の15分前。
※障がい者、高齢者及び「わの会」割引なし。
※前売り券はチケットぴあ(Pコード460-086)にて発売。

主催: 福岡市総合図書館
映像ホール・シネラ実行委員会
PFFパートナーズ

協力: N 東京国立近代美術館フィルムセンター

F National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

3日(月・祝)11:00 PFFアワード・プログラム A

ゲンツウ

2007年/ビデオ/カラー/36分/監督:岩永洋

無防備

PFFアワードグランプリ、技術賞、Gyao賞

2007年/ビデオ/カラー/88分/監督:市井昌秀

「ゲンツウ」は夫を亡くした老女の日常を台詞を使わずに静かに描いた感動作。ゲンツウ(幻痛)とは失ったはずの身体の一部が痛む現象のこと。「無防備」は工場で作人の妊婦千夏の指導に当たるベテラン律子の物語。本作では女性の力強さ、逞しさ、繊細さ、しなやかさ、怖さを映像に収めたかったと監督は語る。

3日(月・祝)14:00 ダグラス・サーク特集

第九交響楽

監督: デトレフ・ジールク

(ダグラス・サーク)

出演: ヴィリー・ビルゲル

リル・ダゴファール

1936年/35ミリ/モノクロ/98分/ドイツ/日本語字幕付き

公金横領でアメリカに逃亡したミュラーとハンナ夫婦だが、ミュラーの死後、ハンナは息子に会うためにドイツに帰国する。息子は有名な指揮者の養子になっていた。ハンナは正体を隠して子守役として息子に会う。サークが自らのスタイルを確立した記念すべき作品で、メロドラマの大ヒット作である。東京国立近代美術館フィルムセンター収蔵作品

※作品が古い音声がお聞き苦しい点があります。

3日(月・祝)16:30 ダグラス・サーク特集

思ひ出の曲

監督: デトレフ・ジールク

(ダグラス・サーク)

出演: マルタ・エッゲルト

ヨハネス・ヘースタース

1936年/35ミリ/モノクロ/85分/ドイツ/日本語字幕付き

音楽祭に若い歌姫ベロッチが招待される。彼女はまだ見ぬ父を探しに来るが、国境の検問で警備兵のワルターに出会い、一目惚れしてしまう。ベロッチを演じるマルタ・エッゲルトの弾けるような歌声、エロティックな入浴シーンなど魅力満載のオペレッタ・コメディの傑作。東京国立近代美術館フィルムセンター収蔵作品

※作品が古い音声がお聞き苦しい点があります。

11月

上映スケジュール

フエ あ ス テ ィ ル バ ム ル	1 土	11:00	プログラム D	13:45	プログラム F	16:30	プログラム B 第18回FFSカラシップ作品	19:15	
	2 日	11:00	プログラム C	14:00	プログラム E	16:45	プログラム G		
	3 月・祝	11:00	プログラム A	14:00	ダグラス・サーク特集	16:30	ダグラス・サーク特集		

4 火

休 館 日

5 水

休 映 日

A T G 映 画 特 集	6	木	14:00 少年	
	7	金	14:00 とべない沈黙	19:00 告白的女優論
	8	土	11:00 青春の殺人者	14:00 津軽じょんがら節
	9	日	11:00 ガキ帝国	17:00 竜馬暗殺
	10	月	休 館 日	
	11	火	休 映 日	
	12	水	14:00 遠雷	
	13	木	14:00 逆噴射家族	19:00 生きてるうちが花なのよ 死んだらそれまでよ覚悟宣言
	14	金	14:00 台風クラブ	19:00 少年
	15	土	11:00 サード	14:00 告白的女優論
	16	日	11:00 とべない沈黙	17:00 遠雷
	17	月	休 館 日	
	18	火	休 映 日	
	19	水	14:00 津軽じょんがら節	
	20	木	14:00 逆噴射家族	19:00 サード
	21	金	14:00 青春の殺人者	19:00 とべない沈黙
	22	土	11:00 生きてるうちが花なのよ 死んだらそれまでよ覚悟宣言	14:00 逆噴射家族
	23	日	11:00 遠雷	17:00 ガキ帝国
	24	月・祝	11:00 台風クラブ	14:00 青春の殺人者

25 火

休 館 日

26 水 ▶ 29 土

休 映 日

30 日 自主上映 [福岡映画サークル協議会40周年記念例会]

自主上映のお知らせ

11月30日(日)福岡映画サークル協議会40周年記念例会(2008年第6回例会)

映 画 上 映:「にこりえ」11:00~13:10

特別講演会:「戦後映画史における独立プロ作品」(仮題) 14:00~15:00

講師:山田和夫(映画評論家)

映 画 上 映:「真空地帯」15:20~17:30

観 覧 料:前売り1,000円(映画1本と講演) 1,500円(映画2本と講演)

当 日 1,200円(映画1本と講演) 1,700円(映画2本と講演)

主 催:福岡映画サークル協議会(TEL:092-781-2817)

※詳細については、直接主催者にお尋ね下さい。

交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄

●西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス

- 天神~都市高速経由~福岡タワー南口(所要時間:昼間で約20分)
- 博多駅~都市高速経由~福岡タワー南口(所要時間:昼間で約25分)
- 福岡タワー南口バス停から徒歩3分
所要時間は交通事情により異なります。
お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください



ATGについて

日本アート・シアター・ギルド(ATG)は、それまで日本では上映されることの少なかった芸術的な映画を興行するため1961年に発足する。東京の映画館、日劇文化を中心にいくつかの劇場がアート・シアターチェーンを組み、批評家を中心にした選定委員会が上映作品を決定するという画期的な方法を取り、第一回上映作品はポーランド映画の「尼僧ヨアンナ」だった。その後サタジツ・レイ監督の「大地のうた」、フェデリコ・フェリーニ監督の「8½」、オーソン・ウェルズ監督の「市民ケーン」など珠玉の作品が劇場公開された。日本映画では勅使河原宏監督の「おとし穴」、新藤兼人監督の「人間」、黒木和雄監督の「とべない沈黙」などがある。

ATGは今村昌平監督の「人間蒸発」(67年)から製作にも関わるようになる。それは相手の会社と製作費を折半し、予算1千万円で映画を作るという方法だった。当時の普通の劇映画の製作費は4~5千万で、ATGの「一千万円映画」は低予算の芸術映画の代名詞となっていく。大島渚監督の「絞死刑」、松本俊夫監督の「薔薇の葬列」、寺山修司監督の「書を捨てよ町へ出よう」など前衛的で強烈な個性を持った作品が生み出されていく。そして洋画の配給・上映を中心にしていたATGは、60年代終わりから製作にシフトしていく。

70年代の斜陽化する日本映画界では芸術的な作品を作る余裕はなくなっていく。ATGの低予算であっても監督が自由に作れる映画製作は大変魅力的で、多くの監督達がATGで映画を撮るようになる。羽仁進、東陽一、黒木和雄などドキュメンタリー出身の監督たち、そして長谷川和彦、井筒和幸、根岸吉太郎といった新人監督たちがATGから登場する。これらの監督達は80年代にはミニシアターで公開される日本映画の中心を担っていく。経営難により、残念ながらATGは90年代に入り活動を停止する。知的で複雑な構成の作品、若さの勢いとパワー溢れる作品などATGは様々な作品を製作または配給し、60年代~80年代の日本映画の、少なくとも芸術的なジャンルにおいては中心的存在だった。このことは67年以降のキネマ旬報ベストテンが雄弁にそれを物語っている。



逆噴射家族

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表):092(852)0600

映像資料課:092(852)0608 Fax:092(852)0609

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ「うえぶシネラ」<http://www.cinela.com>